



Build your bright future



Japanese Medical Specialty Board



日本専門医機構 理事長
渡辺 毅

患者さんの期待に応える専門医に

2018年に開始された新専門医制度は、国民（患者さん）の「信頼できる標準的な専門医療を受けたい」、専攻医の「自信を持って医療を担当できる医師になるための充実した研修を受けたい」という両者の要望に応えることが目的です。制度的には、19の基本領域を取得し、必要に応じて基本領域が細分化または横断化されたサブスペシャリティ領域を取得する二段階制となっています。臨床医志望の医学生、臨床研修医の皆さんは、いずれかの基本領域の専門医の取得を目指していただきたいと思います。日本専門医機構は、各領域の統一化・標準化と専門医制度充実を図る第三者組織であり、皆さんの専門研修を手助けすることを使命と考えています。皆さんが国民の期待に応えられる専門医となるように一緒に頑張りましょう。



医師臨床研修医の皆さんへ

日本専門医機構 副理事長 / 日本医師会副会長 **角田 徹**

医師として歩み出し、その基本姿勢や基礎的診療技術の習得に励んでおられることでしょう。その後の進む道は各人様々でしょうが、しっかりと専門性を身に付けていただき、日本そして世界の医療、ひいては社会全体に貢献していただきたいと思います。皆さんが専門的な知識・経験・技量を確実かつ的確に学び獲得できるよう、各学会と協働して私たち専門医機構は活動しています。ぜひたくさんのご意見やご希望をお寄せください。未来に向けて、ともに活動いたしましょう。



医学部生の皆さんへ

日本専門医機構 副理事長 **齊藤 光江**

初心を思い出してください。何故医学の道を志したのか？どんな医師、どんな研究者、どんな人になりたいと思い、医学部に入学したのか？そして、まだ見ぬ自身や医療社会の未来を思い描き、自分が自分ならではの特性を活かして何に貢献できるのかを常に探り、この道を求めてください。やがては、ここぞというところで後輩のためを思って行動できる人になっていただきたいと思います。日本専門医機構は、そんなあなたを応援します。

皆さんのキャリアを拓くために

専門医ってどんな制度？

「専門医」は、各専門領域において国民に標準的で適切な診断・治療を提供できる医師です。

「専門医制度」は、日本専門医機構が各基本領域学会と一緒に、統一的な基準で各専門領域のプロを育てる仕組みです。

医師国家試験 合格

医師臨床研修
(2年間)

研究医・行政医師・
起業等のキャリアパス

専門研修に入らない
選択肢も

基本領域は
19領域だ！

基本領域専門研修
(3～5年間)

3～5年の研修後、
試験に合格して
晴れて専門医に！

基本領域専門医

専門医取得のロードマップ

5年毎更新

更新時には**診療実績**や**試験**などが領域ごとに課されます

サブスペシャリティ領域
専門研修(年数は領域による)

試験

サブスペシャリティ
領域専門医

5年毎更新

基本領域専門研修 **19** 領域

サブスペシャリティ領域
専門研修 **29** 領域

※2025年2月21日現在

内科／小児科／皮膚科／精神科／外科／整形外科／産婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／泌尿器科／脳神経外科／放射線科／麻酔科／病理／臨床検査／救急科／形成外科／リハビリテーション科／総合診療

消化器内科／循環器内科／呼吸器内科／血液／内分泌代謝／糖尿病内科／脳神経内科／腎臓／膠原病・リウマチ内科／消化器外科／呼吸器外科／心臓血管外科／小児外科／乳腺外科／放射線診断／放射線治療／アレルギー／感染症／老年科／腫瘍内科／内分泌外科／肝臓内科／消化器内視鏡／内分泌代謝内科／糖尿病内科／放射線カテーテル治療／集中治療科／脊椎脊髄外科／新生児／小児循環器

👉 個々の専門研修プログラムは領域
👉 当機構は領域学会と協調し、「日本

学会によって審査され、当機構で2次審査後、認定します
専門医機構認定専門医」の審査・認定を行います

専門医になるまでのみちすじ

第一段階

研修プログラムを決めるまで

STEP

1

専攻医登録

はじめに機構システム(JMSB Online System+)に専攻医登録します
応募期間前に済ませておきましょう

JMSB Online System+
専攻医登録・応募ページ



STEP

2

専門研修プログラムの検索と応募

全プログラムの情報を機構システムで閲覧できます
都道府県や領域で施設を検索し、施設のホームページや見学などを通して応募先を決め、応募受付期間に機構システムから、希望する専門研修プログラムに応募します

STEP

3

面談と採否の決定

プログラム統括責任者からの案内により面談を受けます
その後、プログラム統括責任者は採用期間に採否を決定します

※専門研修プログラムは原則としてプログラム制

※カリキュラム制は特定の理由(従事要件・出産など領域による)がある場合に、専門研修プログラムに所属し、単位制でプログラム制と同等の到達目標を達成する

STEP

4

採用結果

機構システムで採用結果通知を確認します

この4ステップで
研修先が決まるよ!

臨床研究医コースという、
研究への比重を大きくし、
専門医と学位の取得を
目指すコースもあるよ

臨床研究医コース
専攻医募集について



研修先決定

決まらなかった場合
2次募集に応募できます

第二段階

研修開始から専門医資格を取るまで

STEP

1

研修開始

専門研修プログラムは3~5年(※領域によって異なる)
基幹施設、連携・関連施設でローテーションしながら研修を受けます

STEP

2

研修修了認定

研修実績登録後、JMSB Online System+より修了申請します(※領域によって異なる)
プログラム統括責任者・各基本領域学会・日本専門医機構による研修項目達成の確認が行われます

STEP

3

認定試験

各基本領域学会により実施される試験を受けます ※当機構の「専門医認定試験指針」に則る

STEP

4

1次審査

各基本領域学会により研修修了の承認、試験の合否判定

STEP

5

2次審査

日本専門医機構により研修修了承認・機構理事会にて機構専門医の認定

この5ステップで
専門医が取れるよ!



日本専門医機構認定専門医を取得 「機構専門医認定証」発行

※領域により、さらに専門性に特化した「サブスペシャリティ領域専門医」の研修が可能になります

日本専門医機構が認定する 19の基本領域

専門医を取得するためには基本領域から1つを選びプログラムに所属して、専攻医として研修を積みまします。各領域のプログラム制における基本研修年数とホームページ二次元コードの一覧です。

内科 (研修年数: 3年)

学会名
日本内科学会



小児科 (研修年数: 3年)

学会名
日本小児科学会



皮膚科 (研修年数: 5年)

学会名
日本皮膚科学会



精神科 (研修年数: 3年)

学会名
日本精神神経学会



外科 (研修年数: 3年)

学会名
日本外科学会



整形外科 (研修年数: 3年9ヶ月)

学会名
日本整形外科学会



産婦人科 (研修年数: 3年)

学会名
日本産科婦人科学会



眼科 (研修年数: 4年)

学会名
日本眼科学会



耳鼻咽喉科 (研修年数: 4年)

学会名
日本耳鼻咽喉科
頭頸部外科学会



泌尿器科 (研修年数: 4年)

学会名
日本泌尿器科学会



脳神経外科 (研修年数: 4年)

学会名
日本脳神経外科学会



放射線科 (研修年数: 3年)

学会名
日本医学放射線学会



麻酔科 (研修年数: 4年)

学会名
日本麻酔科学会



病理 (研修年数: 3年)

学会名
日本病理学会



臨床検査 (研修年数: 3年)

学会名
日本臨床検査医学会



救急科 (研修年数: 3年)

学会名
日本救急医学会



形成外科 (研修年数: 4年)

学会名
日本形成外科学会



リハビリテーション科 (研修年数: 3年)

学会名
日本リハビリテーション
医学会



総合診療 (研修年数: 3年)

学会名
総合診療専門医
検討委員会



日本専門医機構ホームページ内整備基準

基本領域学会
研修プログラム整備基準



基本領域学会
カリキュラム整備基準



整備基準とは、
研修内容について
書かれたものです

専攻医応募 スケジュール

例年**10月～11月頃**にHPにて専攻医募集スケジュールを案内しています。

※都合により変更になる場合があります。

例:2025年度の
募集スケジュール

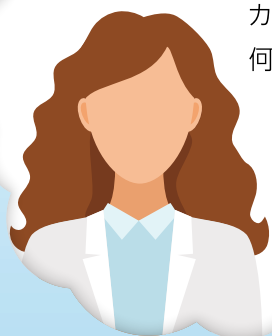
- ▶ お知らせ時期 **10月中旬**
- ▶ 専攻医1次募集 **11月初旬**
- ▶ 専攻医2次募集 **12月初旬**
- ▶ 最終調整期間 **1月初旬**

日本専門医機構HP
応募スケジュール

<https://jmsb.or.jp/senkoi/#an03>



出産・育児のため
研修期間を休止する予定があったので
研修が修了できるか不安でしたが、
カリキュラム制を利用して
何とか条件を満たすことができました。



専攻医B

経験症例の登録や
要約の作成など
どうしても後回しになってしまい
最後に苦労しました。



専攻医A

専攻医 ・ 専門医 の声

専門医になって、
患者さんへの対応や
治療もより自信を持って
臨めるようになりました。



専門医G

私はさらに専門的な
サブスペ領域に進みたいと
考えていたので、
専門医取得によって
自分のやりたい方向に
進むことができています。



専門医H

Q&A(よくある質問)

Q1 専門医は取らないといけないのですか？

A 専門医は、各専門領域で、十分な知識や経験を持ち、標準的な治療を提供できることを示す公的資格です。臨床医には取得が望ましいですが、法的には任意です。一方、研究、行政、企業、医療ビジネス分野などで活躍する医師も多く、専門医資格を必ずしも必要としないキャリアもあります。

Q2 専門医をいくつも取得することは可能ですか？

A 専門医資格を維持するためには診療実績などが求められます。また、19基本領域は原則独立した専門領域です。専門医を複数取得することは可能ではありますが、いくつもの異なる基本領域の専門医を維持することが可能かどうかを考えて応募してください。希望する場合は、日本専門医機構または各基本領域学会にお問い合わせください。(2つの基本領域専門医資格を持つことをダブルボードと言います。)

Q3 専門研修プログラムを始めるには、大学病院のプログラムに入る必要がありますか？

A 大学病院以外でも、専門研修プログラムを統括している基幹施設で研修することを選択することができます。

Q4 専門研修を中断することができますか？

A 専門研修プログラムを途中で中断することは可能です。中断の際は領域別に定められた手続きが必要となります。また、出産、育児、介護、海外・国内留学、などの理由で中断した場合、中断期間が一定期間を過ぎる場合にはプログラム制からカリキュラム制(単位制)に移行することや、また予めカリキュラム制で研修を開始することが可能な場合があります。他にも、地域医療従事者(地域枠医師等)、就業義務を有する医科大学卒業生、ダブルボードを目指す医師では一時的な中断やカリキュラム制の利用も可能です。中断の手続きやカリキュラム制への移行条件等については、まずは基本領域学会にお問い合わせください。

Q5 サブスペシャリティの専門医を取るにはどうしたらいいですか？

A まずは19領域の基本領域の専門医を取得し、その後サブスペシャリティ領域研修に進み、より専門的な研修をするのが原則です(通常研修)。一部のサブスペシャリティ領域では、基本領域の研修2年目以降からサブスペシャリティ領域の研修も開始できる連動研修方式や、一つのサブスペシャリティ領域研修と併行して第2サブスペシャリティ領域研修を行うことのできる補完研修方式を採用しています。

Q6 専門研修を受けながら大学院に行くことはできますか？

A はい、専門研修プログラムを受けている途中でも、修了後でも大学院の進学に妨げになるものではありません。また、通常の専門研修(プログラム制やカリキュラム制)の他に、臨床研究医コースという研究への比重を大きくし、専門医と学位の取得を目指すコースも選択することができます。

Q7 総合診療とは何をしている領域ですか？

A 総合診療専門医は特定の臓器や疾患を専門とするのではなく、幅広い視野で患者や家族を見守り、地域を支えるオールラウンドプレイヤーです。扱う問題の広さと、様々な診療の場への対応力が特徴です。

Q8 シーリングとは何ですか？

A 専門医の地域及び診療科偏在を助長しないために設定される都道府県別、領域別の専攻医登録の定員のことです。現在、医師数の減少傾向にある外科、産婦人科など5領域と新しく設置された総合診療を除く13領域で厚労省が算出した必要医師数を超える都道府県で設定されています。



一般社団法人 **日本専門医機構**



<https://jmsb.or.jp/>

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番2号 富国生命ビル23F